



## 第 18 号

(2023年3月1日 発行)

安城保護区保護司会  
発行責任者 石川 誠

編集  
安城市社会福祉課内  
安城保護区保護司会  
総務部会

## 青春とは心の若さである

保護司会 会長 石川 誠



安城保護司会報も第18回刊行となりました。地域の皆様に更生保護活動を少しでもご理解いただきますように、先代会長石川道代様の一文字をいただき「みち」をお届けして18年間、歴代の総務部会の皆様で発刊事業活動をしてまいりました。

今回の刊頭の題は、商いの神様とされている松下幸之助翁の「青春とは心の若さである」という言葉であります。新型コロナウイルス感染症により、3年間余りは従来のような活動も困難であり、更なる挑戦の意欲を失っていないでしょか。青春とは、体そのものでなく心の若さであり、

信念と希望にあふれ、勇気をもって日々新たな活動を続ける限り、青春は永遠にその人のものであると思います。

さて安城保護司会においては、「再犯防止推進計画」を行政機関などと共に実施することとなりました。法務省・保護観察所・愛知県・安城市をはじめ更生保護女性会・BBS会・協力雇用主会と連携して、再犯防止啓発活動・社会を明るくする運動を中心に再犯防止について、関心と理解を深める活動が重要になります。

このような更生保護活動に課せられた使命の重大さを認識し、研鑽に努め、地域社会の期待に応えるべく貢献できるよう、一致団結・邁進する安城保護区保護司会でありたいと願っています。

今後ともご支援ご協力をお願いします。

## 主体的な学び

安城市教育長 石川 良一



を凝らして教育活動を展開しています。

今年度、ある中学校の生徒たちが地元の保育園の草取りに取り組みました。発起人となつた生徒は、市制70周年記念事業として行われた安城未来ミーティングに参加したことをきっかけに、地域に貢献したいと考えたのです。地元の保育園に草が茂っていることを、日ごろから気にしていたその生徒は、保護者や市役所等に相談しな

がら、草取りを計画しました。そして、学校でボランティアを募り、志に共感した50人以上の仲間とともに園庭の草取りに取り組みました。活動後の取材において、「これからも伝統として続いてほしい」と、思いを伝える姿からは、自ら考え、行動したことへの達成感がうかがえました。

ここ3年間、新型コロナウイルスの感染拡大により、教育活動においても様々な制限が課されています。しかし、そのような状況下においても子どもの学びを止めることなく、家庭・学校・地域の皆様と協力して、よりよい学校教育を進めていきたいと思います。今後もご支援、ご協力をお願い申し上げます。

# 愛知県更生保護大会(安城市)を終えて

地元大会準備委員長 稲垣 正義

今年度の「愛知県更生保護大会」は、20余年ぶりに地元安城市民会館において11月11日(金)に開催されました。

コロナ禍での開催は、当初の計画から感染拡大の防止を鑑み、規模を縮小(参加者を1,200人から600人に限定、一つおきに座席を指定、清興を中止)し、清楚ではありましたが厳粛な式典でした。清興を担つて頂く予定でした地元高等学校郷土芸能同好会(三河万歳)の皆様には大変申し訳なく思っています。

大会開催の準備は、遡ること2年前、安城保護区に地元準備委員会が発足しスタートしました。その後、安城保護司会、安城市更生保護女性会、安城市役所福祉部、名古屋保護観察所、愛知県更生保護大会準備委員会との度重なる打合せや協議、念入りな現場視察などを行い、その回数は述べ30回余に及びました。

大会関係者の皆さんのご協力・協働により、式典を無事終えることができたことを感謝しています。



愛知県保護司会連合会会长式辞(安城保護区 石川会長)



歓迎のあいさつ(安城市長)



法務大臣表彰



受付ボランティア



受賞者代表謝辞



会場受付(安城市民会館・ホワイエ)



客席準備(地元関係者)

**令和4年度** **栄誉に輝いた方々**

叙勲 (令和4年4月29日) (安城市関係分)

**瑞宝双光章** **石川 誠**

愛知県更生保護大会 (令和4年11月11日) **伊藤恵美子**

**法務大臣表彰**

中部地方保護司連盟会長表彰

名古屋保護観察所長表彰

名古屋保護観察所長感謝状 (家族功労)

愛知県保護司会連合会長表彰

安城市発展祭 (令和4年5月8日) **後藤喜久男**

一般功労者表彰

梅村正一 塚本和彦

水野義孝 神谷豊治

早川 守 山口順子 岩月隆夫

杉浦博之 内藤和光 山本康孝

伊藤正春

清水信行

(敬称略・順不同)

# 第72回社会を明るくする運動

犯罪予防部会 部会長 服部 和光

令和4年度の「第72回社会を明るくする運動」は、街頭啓発活動を3年ぶりに開催し、ミニ集会も各学区で開催することができました。

また、市民の皆様に広く周知を図るため、市役所北庁舎に「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」の懸垂幕を掲げ、アンフォーレの図書情報館でのコラボ展示も新たに実施しました。

標語作文コンテストは、今年も実施しました。小中学生に犯罪や非行について考えたことや感じたことを標語作文に書くことで社会を明るくする運動への理解を深めてもらうことを目的としています。応募作品数は年々増加して今回の標語は市内全校から8,756点の応募があり、作文については211点の応募がありました。

優秀作品の表彰式は、10月2日にアンフォーレホールにおいて開催しました。アトラクションに東山中学校和太鼓部による和太鼓演舞の披露により表彰式を盛り上げていただきました。



標語作文コンテスト受賞者のみなさん



アトラクション

## 標語・作文コンテスト入賞作品(安城市標語・作文コンテスト)

### 標語の部

#### 最優秀賞

「助け合い 小さな優しさ 大きな救い」  
「さえあう えがおいっぱい ぼくのまち」

石原 奏音 (明祥中学校2年)  
上野 虹音 (三河安城小学校4年)

#### 優秀賞

「大丈夫?」 心にささやく 愛言葉  
「助け合い やさしい気持ち ありがとう」  
「つらいとき 抱え込まずに SOS」  
「一人じゃない 一人でかかえず 相談しよう」

森尾 朱里 (安祥中学校2年)  
中尾 美優 (安城北中学校1年)  
角谷 紗奈 (安城南中学校3年)  
豊田 彩乃 (桜町小学校4年)

#### 入選

山口 美羽 (安城北中学校3年)  
水野 紗也香 (安城南中学校1年)  
中神 心湖奈 (里町小学校5年)

石川 莉々子 (安城西中学校1年)  
石川 桃菜 (桜林小学校5年)  
鈴木 海里 (高棚小学校6年)

### 作文の部

#### 最優秀賞

「自分の行いで社会を明るく」  
「ありがとうを言い合える社会に」

和氣 咲姫乃 (今池小学校6年)  
八木 乃々葉 (三河安城小学校6年)

#### 優秀賞

「足りないもの」  
「本当の友達」  
「挨拶の大切さ」  
「二つの絆で犯罪をなくそう!」

花井 来希 (安城西中学校3年)  
細田 恵子 (安城西中学校1年)  
鶴見 愛梨 (安城西中学校2年)  
石川 桃莉 (高棚小学校6年)

#### 入選

杉浦 絵麻 (桜井小学校6年)  
清野 葵衣 (高棚小学校6年)  
吉村 颯哉 (安城東部小学校5年)

鈴木 海里 (高棚小学校6年)  
立木 希依 (高棚小学校6年)  
植村 歩加 (安城南部小学校1年)

## 二更生保護団体の活動紹介

### 子供たちの笑顔は未来への希望

安城市更生保護女性会 会長 船尾 恭代

更生保護女性会は「更生保護活動」「非行防止活動」「子育て支援活動」の三つの柱をもつて活動をしている全国的なボランティア団体です。

安城市地区会の私たちは、市内の保育園・こども園・幼稚園に毎年ビーズのストラップ型のマスコットを1000個程手作りして、順番にプレゼントをしています。この2年間は園に直接訪問できず、保育課に届けていましたが、今年度は園に届けることができました。

一つ一つ心を込めて作ることも楽しいのですが、訪問して手渡しすると、子供たちが笑顔で「きれい」「これにする」「ありがとう」など言いながら受け取ってくれます。コロナによるクラス閉鎖がふえてきている時期

で、代表の子供に渡す園もありましたが、短くても楽しい時間を過ごしました。また、安祥公民館の家庭学級時の託児も子供たちや若い親たちと触れ合う大事な時間です。これからも、あきらめないで工夫して、楽しい活動を続けていきたいと願っています。



子供たちへの手渡しの様子

### 安城協力雇用主会設立から11年

安城保護区協力雇用主会 会長 鈴木 浩

安城協力雇用主会は、対象者が矯正施設を出所後、再犯防止の一助になればと、名古屋保護観察所の指導のもと平成23年9月安城保護司会と市内14社の方々の協力でスタートしました。11年が経過した現在、市内42の企業の皆様に理解をしていただき、会員登録をしていただけております。

ここ数年、良いことなのですが対象者の減少から直接、雇用等はすっかりなくなり、また一昨年度から続くコロナ禍の影響で、更生保護活動も思うようにできておりません。このような現状ですが、安城協力雇用主会は対象者に対して、設立当初からの『お帰りなさい』精神で進んできています。会員の皆様には変わらぬご支援をよろしくお願ひいたします。

また保護司会をはじめ関係各位の方々から、ご指導ご助言をいただき、新しい変革の時代を進んでまいりたいと考えております。コロナも収まり、正に『笑顔がいっぱい、明るい社会』を皆様と共に歩んで行けたらと思っております。安城協力雇用主会に、さらなるご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。



### 安城市BBS会の活動について

安城市BBS会員・保護司 三浦 正喜

保護司の立場から安城市BBS会についてご案内します。

2013年、休止中だった安城市BBS会の再始動にあたり、安城保護区保護司会石川会長よりBBS会への参加依頼を受けました。初代会長には休止以前のBBS会に詳しい松尾様が3名の参加者を誘い就任し、当時大学生だった太田様も参加して7名で設立準備会が発足しました。

現会員をご紹介します。近藤様は株式会社ビレッジ開発社員で定例会の会場を無償提供してくださいます。保護司である神谷様は母娘で参加くださり、花井様はガールスカウト活動等を通じ幅広い人脈を持つ現会長です。学習塾経営の加藤様は教室の機材を使い資料・案内等の作成をする副会長です。新聞販売店を経営する安達様も機材や作業場所などを無償提供して

いただいています。

更生保護に賛同し、会費を負担した上で有形無形の協力のもと、活動するBBS会員に、保護司として心より感謝します。

BBS会としての更生保護活動を9年間模索していますが、安城保護区対象者に対する「ともだち活動」の対象者はいませんでした。BBS活動が有効と感じられる対象者がいる場合は、保護観察所、BBS会にご相談ください。



グループワーク「モルック大会」開会式

## 二 保護司会各部会の活動紹介

### 石川会長叙勲祝賀会を開催して

総務部会 部会長 梅村 正一

総務部会の主要事業は、機関誌「みち」の発行と定例会の運営及び表彰の祝賀会並びに保護司の歓送迎会です。

令和4年度春の褒章で、石川会長は瑞宝双光章を受章され、5月の総務部会で祝賀会を準備することになりました。

保護司会を中心に手作りの会とするため、企画調整会議や理事会の意見を聞き準備を進めました。

祝賀会は、第7波のコロナ感染状況の落ち着きを期待して、7月の理事会で、10月12日にグランドティアラ南名古屋で開催することに決定しました。

一番の苦心は、手作り感をどのように演出するかです。会員の特技を活かし、司会進行や箏の演奏、歌唱

を会員にお願いし、祝賀の宴は、各学区が演出する宴となりました。

来賓として、保護観察所弥永所長、保護司会連合会中村局長、安城市原田福祉部長、細井社会福祉課長に参加いただき、宴に花を添えていただきました。



叙勲祝賀会の様子

### 3年ぶりの県外研修

研修部会 副部会長 内藤 和光

11月28日(月)、石川県金沢市の更生保護施設「親和寮」を目指しました。民家が立ち並ぶ中を対向車に気を遣いながら、バスはゆっくりと進みました。見えてきたのは、広い駐車場と2階建てのピツカピツカの建物。ホテルではないかと見まがえるばかり。更生保護施設とは思えない外観でした。

部屋には、近郊の観光地名や都市名がつけられ、その横には美しい写真が飾られていました。

しかし、他の壁には掲示物がなく、そこから「入寮者自身に自分の行動を決定させ、自己判断力を伸ばしたい、自律心を育て早く社会復帰させたい」という施設側の思いを知りました。

更生保護法人「徳風園」という民間施設であるための苦労もあると聞きました。経営を成り立たせるためには入寮者の確保が重要であり、定員20名のところ、

常に14名以上の確保が運営上必要であるとのことでした。

入寮者を減らしたい思いと減らしたくないという思い。この矛盾している両面の思いを持つ、民間更生保護施設の運営の難しさを教えられました。

その後、小松能美保護司会(元山洋会長)との交流会を行い、有意義な情報交換会となりました。

今回は3年ぶりに実施した県外研修であり、中身の濃い、意義深い研修となりました。



県外研修(親和寮)

### 第2回ステップアップ研修会

研修部会 会計 江坂 慎也

今回の研修会では、保護観察対象者の再犯防止に向けて、自治体の福祉との連携の重要性を学ぶ機会としました。

そこで、安城市役所の福祉行政の職員を招き、支援の実際を紹介いただきました。

社会福祉課からは、行政や更生保護関係者と福祉関係者らが相互に理解を深め、連携することの重要性を学びました。何の支援もなく刑務所に戻されることがないようにしたいとの話には説得力がありました。

生活困窮者自立支援のための住居確保給付金の支給、就労準備支援・一時生活支援等の事業があることや、社会福祉協議会からは、食糧支援や生活福祉資金の貸し付け等の説明があり、様々な支援があることを

学びました。また、対象者の困り感に応じて相談してほしいと話されました。その他、障害福祉課からは障害給付の説明、高齢福祉課からは一人暮らしの高齢者への支援について詳細に説明をいただきました。

ご出席いただいた名古屋観察所の鈴木統括監察官からは、この研修会のことを他の市町の保護司会にも報告したいとご好評をいただきました。



ステップアップ研修会

## 犯罪予防部会の活動紹介

犯罪予防部会 部会長 服部 和光

第72回社会を明るくする運動の活動は、新型コロナ感染状況を見ながら不安の中で進めました。

今年度の街頭啓発活動は、西中学区を重点地区としてピアゴ福釜店、DCMカーマ安城福釜店で実施しました。

7月1日午前11時から市長、保護観察官、市議会議員、町内会長及び更生保護女性会、BBS会、雇用主会の協力を得て保護司含め50人体制で啓発活動を開始しました。啓発用品を貢物客に気持ちよく受け取つていただくため、全員白手袋をして、感染予防に気を使いながら、社会を明るくする運動への協力を呼びかけることができました。

また、ミニ集会を8学区10会場で開催し、延べ445人

の参加をいただきました。今年度のテーマは改正少年法が4月に施行されたことから、安城警察署生活安全課少年係長に講話ををお願いし、特定少年が責任ある主体とされ刑事責任を負うべきという考え方を参加者に理解をしていただけることを目指しました。各学区とも学区の市議会議員、町内会長、小中学校の校長・教頭先生から地域の現状をお話ししていただきました。



街頭啓発活動

## 保護司会と更生保護女性会の相互のつながり

育成指導部会 副部会長 山本 康孝

県更生保護女性連盟会長大津知美様を招き、保護司49名、更生保護女性会員12名の参加で保護司会・更生女性会合同研修会を2月1日に県保護司会連合会石川誠会長との対談形式で開催しました。

県内には、6カ所の更生保護施設があり、地域ごとに更女会が清掃・食事など援助しています。その際対象者は、保護司との立場とは異なり、温かさを感じているということでした。

共通の課題は、町内会や地域の理解をどのように深めていくかということです。更生保護への理解がある方々が、集会や研修会への参加が増えていくことであ

ます。保護司会も、町内会の協力で、ミニ集会への参加者が増加している地区もあります。

市社会福祉課からは、孤立や貧困の問題など、福祉との連携による更生保護の必要性が提言されました。安城更女会の活動も、園児・保護者を通じて更生保護への理解が広まっていることを感じました。



合同研修会

## 薬物乱用防止指導員の活動

薬物乱用防止指導員会 代表 安藤 義美

10代、20代の若年層では大麻による薬物事犯が年々増加しており、薬物乱用防止活動の取り組みの重要性が求められております。

コロナ禍に伴う活動自粛が続く状況の中で、当指導員会として、「活動を止める訳には行かない」、「独自に取り組むことはできないものか」と考え、指導員相互の創意と工夫により、「指導員の能力向上のための勉強会」、「中学校での薬物乱用防止教室」、「市内各地区ミニ集会での薬物乱用防止講話」、「JAまつりでの麻薬

覚醒剤乱用防止運動」などを行い、「薬物乱用はダメ、ゼッタイ」を合言葉に、多くの人たちに「薬物の怖さと薬物は絶対使わない」を訴えてきました。

今後も、このような地道な活動が成果として拡がっていくことを願い、活動を続けてまいります。



麻薬覚醒剤乱用防止運動

## 更生保護サポートセンターの活動紹介

センター長 後藤 喜久男

平成25年10月に開館した安城更生保護サポートセンター(以下「サポセン」という。)も、昨年10周年を迎えることができました。

開館以来、順調に増加していた利用者も、ここ数年コロナ禍の影響により減少に転じていきましたが、コロナの感染規制も緩和され、今後は回復に向かうものと期待しています。

毎月開催の企画調整保護司会議では、サポセンの利

用に関する課題等について協議していますが、今後の運営方針としては、保護観察経過報告書に関するウェブ化への準備と、Wi-Fiの導入などによる保護観察経過報告書に関連する事務環境の整備、更には対象者への処遇に悩む保護司への相談やアドバイスの場を増やすとともに、サポセンに保護司が気楽に立ち寄れるサロン的な場にしたいと思っています。今後ともご協力よろしくお願ひします。

安城更生保護サポートセンター

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
開館日数(日)	59	239	239	240	243	241	237	230	233	230
利用者数(人)	370	1,342	1,695	1,756	1,825	1,893	1,894	1,695	1,526	1,643

# ご挨拶～緊密に連携した保護観察について～

名古屋保護観察所 統括保護観察官 鈴木 敬幸



本年度、統括保護観察官として着任し、安城保護区を担当している鈴木です。名古屋保護観察所での勤務も初めてであり、わからぬことばかりですが、精一杯取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

さて、本年度、改正少年法が施行され、保護処分や刑事司法手続が変わり、特定少年に対する新たな保護観察制度も開始されました。

また、今後も更生保護法等の関係法令の改正・施行も

予定されているなど、更生保護を取り巻く体制が日々、めまぐるしく変化しています。

保護観察を実施する上で、保護司や関係機関の皆様と緊密に連携し、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を実現するために、一丸となって取り組むことの重要性を実感しながら、やりがいや充実感を持って勤務することができることに喜びを感じ、皆様とともに再犯防止施策を推進していきたいと強く感じています。今後とも、安全安心な社会を実現するために、御協力いただきますようお願いします。

## 新任・退任保護司紹介(令和4年度)

(敬称略・順不同)

退任に寄せて

### お世話になりました

桜井中学校区 保護司 石川 佳寿子



保護司の役を受けたことを実家に報告すると、父に「大変な役を受けたなあ」と言われ、自分の失敗に気づかされました。

確かに「保護司」をぼんやりしたイメージでしかとらえていませんでした。

まず驚いたことは、定例会開始時刻30分前には先輩方はキチンと着席されている光景でした。今考えると、この姿こそ保護司として対象者と向き合う姿ではなかつたかと思います。

相手を待たせるのではなく待つこと。待つ時間の大切さを教えていただきました。

何もできない物知らずの私は、多くの方々に12年間見守られ、励ましの言葉に助けられました。お世話になりました。ありがとうございました。

お疲れ様でした 板津 民雄(篠目中学校区)

### 【編集後記】

新型コロナウイルスが国内で確認されて3年が経過する中、コロナの感染症法上の位置づけが見直されると報道されています。感染症法で厳しい措置がとれる「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に見直すことも含め検討が進められているとのこと。

しかし、制度としての対応方法が見直されたからといって、感染力が弱まるものではありませんし、当分この感染症が無くなることはないと思います。感染防止に留意しながら、社会や私たちの生活が、少しでもコロナ以前の様に戻ることを期待しています。

コロナ禍で社会や生活が大きく変わりました。コロナが変異し変わって行くことに併せて、私たちの考え方や行動も変化に対応できるよう柔軟な発想を持ちたいものです。

新任に寄せて

### 保護司の使命に誇りをもって

桜井中学校区 保護司 植原 重幸



5月の新任保護司辞令伝達式の折、名古屋保護観察所長よりいたいた「保護司の使命に誇りをもって」の激励の言葉に、身の引き締まる思いをいたしました。

退職後はゆつたりと過ごしたいと思いつつも、私にも何かできることがあればと保護司のお話を引き受けました。しかし、対象者に関わる活動を実際に手がけてみると、その活動の難しさ、責任の重大さに誇りをもつどころか心許なさの方が大きくなるばかりで、安易に引き受けたことを悔いることもあります。

この半年、安城保護司会の皆様の献身的なお姿に惹かれ、また温かくも細かなご指導に導かれる中で、所長の言葉の意味を噛みしめております。まだまだ私にできることはわずかではありますが、今後一層精進することでその使命を果たしていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお願いします



石川 充  
(明祥中学校区)



白谷 隆子  
(安城南中学校区)



事務局 安城市役所 社会福祉課社会福祉係  
安城市桜町18番23号 TEL0566-71-2262